表紙

特別
チ12
3656
40

412
3656
40

宮内省圖書寮

風をもたらふなるけをおぐ
下二段活用　四段活用
四段活用
ゆきぬ枝うれとけき　拾遺
旅路の大皇は仕へなは臣下なわ
さらにも美濃国本巣郡まうき
なるかは出らるかしるし我
異乃宣旨はこそ集まことの
和歌のうきゆ、清水本巣郡

五行上、

亟と亟人　　おもまるや園とミ
民も雲みそぐ　四方ふるあるる
さ衣ぬとの秋はたまのやあま
さうるひなの場よなをサ
義備の中尼祖ふく裏老の滝よ
ぬきふくわく　とを亟
うのくおゆ乃松ぬよなぬすむ

五行上、

のよひなの
たる元乃板乃すやすき心うる
加人眠りやく覚て裏い六十お
花よ亟心ハ幕店の月ひうう
ふ義ハ板檜乃裏よたゝよひ
白頭の雪ハ鏡ませおひ乃裏ふ
ゝきり人ゆや心を清むゝせ

下句

奥山の源谷乃下ぶため　うや
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
あらまを波とよもたえ　く
上句
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
也豆ぶ乃ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
つハあるなるふ見も年ゝ山
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
位乃子代乃ため　成松つけ乃
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
累井ぶ乃ハくすまゝ　おひ也
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
乃へ　る　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二句ト　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
久ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゑ、数や雲井をまた見うおいしの雲
大天狗のこと乃わを鞍きゑと
して〻面白乃き数さよ見ゆう
ぶやうに民まてしん　梅まち
本巣郡ゑ　すきゑ原出くる
ゑを美ゆすゑ　笑まとの
宣旨ゑまゑうぎこう神きうて南使を

下さ侍ゑなわ先ゑ衰老と思付
ゑめ一帽を奏申しん　さんん
見ゑまいは射の子みてんの形
ゆいゑの影をとわ申て
そこくこんゑふあゑ時山形乃
はゑまこめやは水成なると
結ひてのめい見なるん心

いく川まきもたすうわ
さなりつ仙宗おくすまのあも
かくやと思ひ云まはやうて
宗祇より祇うひ毎よう祇を
あたふまい　乃むさ孫ふわ
いはうふやうて、元をも忘ま
水乃　数ゐ所起うひ

二十上

よ風乃紅きめもをひうて
いとむ心はきの水のたえひも
おひ重なふゆへよ裏花形
滝うは中也　実うゆいの数や
ねこと形藥形あ仏滝川乃うち
みてもを形を二所乃きやん
はは筑うん仏滝師乃ゐ所形

岩間よりわいでゝ谷の水かなわ
ねハ見あしたまゝ捨いのち
いさゝきの山の井ゝ　夜すゝ
波ふさゝ神石乃岩かとなりて
昔入むす　よ代ゝやちよゝ
ためしとも　まのあゝわなる
藥乃水　ほゝをを　袁ふなわ

上月
元祝ふ所ゝおいゝまして墨乃
人乃方ゝ藥とゝなゝいゝ所ゝも
清壽和も墨ゝきゝ所ゝめてた
うわゝる宝やゝ玉乃孔水上流
濱代ゝとて流乃ゝ和ゝ和ゝて
墨ゝすめふう神ゝきゝよゝぐ
上月
宝や和ゝ墨ゝ墨ゝ時乃ゝをき

世とそだてもつく藥なり又

下　水はすもはきさ　　そ神の川の

あまきハ酒にて能あとを

水はあらはれなるまふうふ

うさうさハの清の清せて

久しくすめるもとりや酒にる

是いためしも安山の下の水の

所ふひよ仙徳をうゑしわ

七面象をふ仙事　薬の水と

下　やゆ酒を　実やくすをときく酒

水を実ひ酒露乃習よ　手毒を

ふ仙や天地乃　ひゝ能乃

上地　薬まそ　花咲見なふ理

を祈ことひ　咲こ花

面霧のめくみあて　屏風

えてい　花乃ゆ毎ゆゑ面霧に

篇をやーかりしてきあふなまき

衣に袖ひちて結ふ衣に信きへ

見ゆる山に井乃実も藥と思ふ

よわ老に為ゆゑ水と見るうう

す祈うわけまき　くるゆ新き

藥のあいうき脳四うて乳実よ裏

ゆてんううう祈けまき　篇も

かふ法ためくを廣き見うけを

たうとあい　新使もゆさまて

変緑してかふ法寿特よあふる

よく　いひもあへよハすき

やかぐ大よわ光かふやきて

[illegible]
[illegible]乃初[illegible]きこゆ音樂
きこえ花ふりぬ見たまつる
あもいれしかく　あわうつや
[illegible]まつる法代乃なつひとて山
河岸の末をたやうふ五日の風や
千ね代あめゝきて法日の光
[illegible]
[illegible]の岩藥の泉い
[illegible]
よもぎきゝ蓬の宮殿やふ
[illegible]
[illegible]
法きをぬ法代をまもふなる
我いはやさ山神社言居　みい
[illegible]
楊柳觀音菩薩　弥陀といひ
佛とゆひ　水波社[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

風や谷乃ゝ音とうゝ水ら

梅子をうろハて高楽乃郷き

たきゝ心を寸まうゝ法ゝ説天来

石ゝ敲向うゝ

松陰よりちよ蛙

鶯き原ミとわうゝ

さもいとし

きゝのき山乃井ゝ

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ

くめやくめは藥を君乃たあよ
さゝらん也水ようかゝ蜀話乃
右よさりてまくせをゝまつ
とわてよもはゝ今飛て月殘
きまふよやく　山谷の奥形
水ゆゑい何まゝ乃人を實ひ
蜀祖のきくゝあの志たゝは霧乃
源とたわわゝまゝる後代の君い
船　きゝいゝ臣い水ゆゝく
毎殘ゝうへくゝて臣よく君を
代くは代ゝゝくひさゝも
君をゝやゝきゝ天ふ月後く
ゆゝ乃上乃世時い下を消らぬ
濃乃の水の浮立なゝ形へは

一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　元　一
う　へ　す　ま　す　き　た　た　代　な　る　や　す　き
一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　元　一　一　一　一
清　代　な　ま　や　百　業　武　人　ち　る　物　つ　と
一　一　一　一　一
ま　ん　く